

関係者協働で 育成プログラムの検討を

四日市港

稲垣 昭義 議員
新政みえ(四日市市選出)

問

四日市港は県の経済活動に大きく貢献しており、その振興については県が積極的に関与すべき領域です。こうした中、コンテナ港湾としての国際競争力を強化するため、国から名古屋港とともに「スーパー中核港湾」の指定を受けたところで、国際競争に打ち勝つ日本を代表する港としての取組が急務です。しかし、国の指定に伴う補助事業は、四日市港にとっての直接的なメリットが少ないのが現状であり、付加価値の創造をはじめ、これからの企画力が問われると考えます。そこで、県は、そのための体制づくりを行った上で、調整だけではなく主導的役割を果たすべきだと考えます。また、県、市、管理組合や港湾関係者がともに議論できる「育成プログラム検討会」のような組織を設置すべきと考えますが、所見をお聞かせします。

答

四日市港の指定は県政にとっても重要なことだと認識しており、四日市港を総合交通体系の心と捉え、背後圏における産業振興策との総合的な取組が必要と考えています。このため、それらを所管する部局や管理組合とよく連携をとりながら進めることが重要であり、四日市港との

四日市港



総合調整を図る窓口として、県総合企画局が今後とも努力していきます。また、議員指摘の「育成プログラム検討会」の設置について、今後は、二県二市やその経済界、両港の管理組合等で、戦略的な方向づけを検討していきたいと考えており、県としてどのように進めるのが良いかといった観点から、検討していきたいと考えています。

●その他の質問事項
・森林環境税の導入

他

熊野古道センターで 世界遺産サミットを

地域防災と地域振興策の推進

野田 勇富雄 議員
自民・無所属・公明議員団(倉敷市選出)

問

熊野古道が世界遺産に登録されました。語り部の充実や地域の活動など、その保全と活用にかかるとなる取組は徐々に熟成してきましたが、外への戦略が不足しています。そこで、「紀伊半島の霊場と参詣道」の保全と活用について、紀伊半島知事会議などを活用して三県知事が戦略の骨格を決め、それを実行するための組織として三県プロジェクト推進室を立ち上げてはどうでしょうか。これには観光力リスマのような外部のプロや、地元の実行委員会組織も必要です。また、情報拠点等の施設となる熊野古道センターでは、イベントなど集客の仕組みづくりが求められますが、例えば、オー

熊野古道 曾根次郎坂・太郎坂



ピング事業として、「世界遺産サミット」を開催してはどうかと考えますが、所見をお聞かせします。

答

これまで奈良、和歌山両県とともに世界遺産登録推進三県協議会を設置して、その保全にとまらず、活用についても共同して取り組んできたところであり、登録後の三県連携について、現在、そのための体制づくりに向けて諸準備を進めているところです。また、熊野古道センター

●その他の質問事項
・三重県政の推進

他

海外調査報告①

イタリア(ポローニャ・フィレンツェ)

私たち四名(右名秀樹、藤田正美、前野和美、館直人)は、五月二十四日から三十一日までの日程で、イタリアへ行政視察調査に派遣され、「都市の伝統」、「文化資本」などによる内発的都市づくりの観点を中心に調査を行いました。

ポローニャでは、住民の意見を行政に反映させる制度としての「地区議会(コンシリーオ)」を、ナウイレ地区議会クラウディオ・マザンニ議長(写真)を行政区事務所に訪ね、地方分権・住民参加の見地からその設置意義やその運用方法、仕組みなどについて歴史的背景とともに学ぶことができました。また、中世よりの偉大な文化的施設などを、歴史的景観等を考慮しながら守り、伝承されている建築物や絵画・工芸品等の文化財を修復する、伝統工業によるまちづくりも視察することができました。そこには、職人としての若者も多く、その技術の取得、継承に積極的に取り組む姿に大きな自負と責任感を感じました。まさに、古来よりの伝統文化資本がその根底にあることを物語

ムについて、その活動内容や課題等を調査し、子どもたちからの味覚教育や食事・食材についての食育の必要性と食の重要性を再確認することができました。今回の行政視察調査を終え、「地域づくり、まちづくり」には、その地域ま

